

アントロポゾフィー看護を学ぶ看護職の会 第30回公開講座

## いきることそして進化に關わる環境としての建築 病気と關わる空間を考える



日時：12月16日（日）13時30分～16時45分（開場13時）

場所：すみれが丘ひだまりクリニック

神奈川県横浜市都筑区すみれが丘13-3

講師：岩橋亜希菜氏

定員：20名

参加費：会員/後援団体会員3000円 一般3500円 学生1000円

※事前申込の上、お振込みをお願い致します。尚、当日お支払の場合は500円増しとなります。

病気と言う状態の中に身を置くとき、それは辛く困難な時間となります。しかし同時に「病であることもひとつ自然な状態であり、病気をすることも意味があるのだ」とすると、過去と未来を結び合わせる現在の中今という1シーンに病を通して関わるものはどのように振舞うのでしょうか。この振る舞いをどうとるかによって、そこでの行為やいとなみの質が変わってきます。

建築は内部空間と言うひとつの世界を形成しますが、その質は空間をどのように創りたいかによって変わってきます。機能やフォルムに翻訳されて建築の肉体や皮膚を形成してゆき、完成した建築はその質を通して人に語りかけ、人は空間を呼吸して生きてゆきます。ですから建築は空間環境として、そこでのいとなみと同じ様に人に関わっています。

今回は医療の場としての建築はどのような空間の質を必要としているのか、そしてそれはどのように形成されるのかを、医療という振る舞いを中心として考えてみたいと思います。